

平成27年度「若葉区地域活性化支援事業」評価シート

団体名： 都賀の台2丁目安心ネットの会

事業名称： 都賀の台第3地区支え合い活動

		評価項目	評価	評価の理由・具体的な状況
1		計画どおり事業が実施できたか	B	・毎月定例会議を開催し活動の推進を行うなど計画どおりに実施できている。
				評価の基準
				A：計画を上回って実施できた B：計画どおり実施できた C：計画どおりに実施できなかった
2	実施した事業の評価	事業目的が達成されたか、または、実施した事業の成果が事業目的の達成につながっているか	A	・自治会と連携した新たな組織（都賀の台支えあい活動委員会）の立ち上げに向けた活動を行っている。
				評価の基準（ア事業目的が単年度 イ事業目的が複数年度）
				A：ア 申請時に掲げた目的を達成することができた イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩として十分な内容であった B：ア 一定の成果は上がったが目的の達成まであと一歩だった イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩とするには課題があるが、改善は可能である C：ア 事業成果は事業目的の達成に不十分だった イ 事業成果は、事業目的の達成に向けた一歩とするには不十分であり、事業目的を達成するためには相当の努力が必要である
3		事業の成果は、地域課題の解決や地域の活性化といった制度の目的に寄与するものであったか	A	・見守り活動だけでなく、災害時にも切れ目なく展開することも考えており、様々な研修を実施している。 ・高齢化が進む中、「支えあい活動」は地域の課題解決につながる。
				評価の基準
				A：制度の目的に寄与するものであった B：制度の方向性とは一致していたが、寄与度は低かった C：制度の方向性とは一致していなかった

		評価項目	評価	評価の理由・具体的な状況
4	団体の活動に対する評価	事業の実施をきっかけとして、団体の活動を周知するためのPRが積極的に行われたか	B	<ul style="list-style-type: none"> 自治会報や自治会の役員会を通じ周知の徹底が図られている。 <p>評価の基準</p> <p>A：様々な媒体を活用した積極的なPRが行われた。 B：知り合いを介してPRが行われるなど、小規模な周知が行われた。 C：PRをあまり行わず、外部にアピールする効果は小さかった</p>
5	団体の活動に対する評価	団体の活性化が進んだか。	A	<ul style="list-style-type: none"> これまでボランティア組織が存在しなかった地区も「都賀の台支えあい活動委員会」設立を機に協力者が増えた。 町内の一部での取り組みが町内全域に広がった。 <p>評価の基準</p> <p>A：事業の実施をきっかけにして、外部との交流に向けた積極的な動きがあり、具体的な成果（例えば、団体構成員の増加、新たな団体間の連携、他団体に対する事業成果・ノウハウの供与、新規事業への着手、実施など）も見られた。 B：事業の実施をきっかけとして外部との交流を行った、もしくは外部との交流への意欲はあったが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった。 C：外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった。</p>
6	団体の活動に対する評価	団体に、事業もしくは団体としての活動を発展、継続させるための動きがあるか	B	<ul style="list-style-type: none"> 「都賀の台支えあい活動委員会」を中心に支えあい体制の質的・量的効果アップに努める予定であること。 <p>評価の基準</p> <p>A：具体的な計画を立てている。 B：具体的ではないが、継続、発展に向けた計画がある。 C：現在のところ、事業、活動を継続する予定がない。</p>

○上の表に書いた事項のほかに「地域づくり」、「団体の成長」、「市や区との連携」「まちづくり活動の人材育成」という視点で事業を振り返ったときに、特に記載すべき事項

- ・ 今後は、市の「高齢者等ごみ出し支援事業補助金」の活用を検討してはどうか。